

夢湧き夢に夢中

第 18 号

令和 7 年 3 月 7 日 文責：大谷

主体的に、協働的に

昨年八月、神野 元基氏のお話を聴く機会があった。神野氏は、大学卒業後渡米し、二十五歳で起業。AI型教材「Qubena」の開発をはじめ帰国されてからは、文科省や経産省の委員を歴任する傍ら株式会社COMPASS等を創業。そして現在は宮崎市教育CIO及び学校法人東明館中・高校の理事長兼校長をされている異色の教育者の一人であり、教員しか経験していない自分にとって、神野氏の言葉は、まるで異次元だった。

その神野氏によると、2045年、世界は「シンギュラリティ」を迎えるとのこと。「シンギュラリティ？」初めて耳にする言葉だった。ただでさえ異次元空間に誘われつつあったわたしの脳内が、ますます混乱を極めたが、話を聴き進めていくと、「シンギュラリティ」とは、「技術的特異点」のことであり、端的に言うくと、AI（人工知能）がAIを創る時代が2045年にきます」とのことだった。

最初はいまいちピンとこない話だな、と思った。2045年ならば、自分は七十四歳。あんまり関係ないな、と。しかし、今中学生である君たちにとってはどうか。二十一年後であれば、三十代半ばとして、まさに社会の中心となって様々な分野で活躍している世代である。そのような年代のときに、シンギュラリティを迎えるであろう皆さんにとって、さて、何がこれから求められるのだろうか。

学習指導要領というものがある。これは、日本全国どこであつても学習する内容に隔たりがないように示された基準であり、これに則りすべての学校で授業が行われている。その学習指導要領の冒頭に示された「総則」に、こんな一文がある。

「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、

判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。（後略）」

ここでキーワードになっているのが二語ある。「主体的に」と「協働」である。そこで一つ目の「主体的に」について、予測困難な時代において、今わたしたち日本人に最も求められている資質の一つだと前置きしたうえで、神野氏は、こう説かれた。

「よく同じように思われますが、自主的とは、他者に決められたことを自ら率先して行うことで、主体的とは異なります」

例えば、任せられた掃除場所を自分から進んで掃除することが「自主的に」ということのような。では、「主体的に」とは。

「主体的に」とは、やるか、やらないかも含めて、自己の行動を主体である自分で決めることです」

つまり、そこがたとえ自分の担当場所でなくとも、汚れているから掃除しようという行動を起こすことが主体的にであり、「自主的に掃除した」と「主体的に掃除した」では、まったく内容が異なるということである。

さらに、自分の身の回りの様々な課題を主体的に解決するべく行動するうえで、そこに賛同してくれる仲間がいれば、もはや課題の解決だけではなく、新たな発想を生み出す可能性へとなりそう。キーワードの二つめである。だから、本校は授業の中に協働的な学びの時間を意図的に設けてきた。他者の考えや意見を聞くことで、自分の考えがさらに深まっていく。そんな感覚をきつと実感してきたに違いない。自ら発信して、多様な人と協働する。ぜひ、これからも心得てほしい。

2045年、もしかしたら世の中は本当にシンギュラリティを迎えているかもしれない。しかし、どんな未来が待っているとも、社会の主体はAIではない。君たちだ。だから、もっともっと主体的かつ協働して未来を創造してほしいと願う。そして、どんな時代であろうとも、仲間とともに「夢湧き、夢に夢中」であり続けて欲しい。卒業おめでとう。そして、ありがとう。

■卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。職員一同心よりお祝い申し上げます。また、三年間本校の教育活動に御理解と御協力いただきましたことにも、心より御礼申し上げます。これからも卒業生の活躍を応援していきたいと思っておりますので、末永くご支援のほどお願い申し上げます。